

目的 最近よく利用されているカードには、販売信用と消費者金融の両機能が付けられており、若者の中にはこれを乱用し、多重債務を負ったり、自己破産が増加している。本研究では、高校生を対象に、彼らの多くが関心を持っている自動車を取り上げ、それをローンを用いて購入する際の仕組みや内容を理解させるとともに、そのローンを生活設計と関連させて組み立て得る能力の育成を目指した教材の開発およびその教材としての評価を行った。

方法 表計算ソフト「ロータス1-2-3」を用い、(1)自動車一覧表から購入意向の自動車の選択(2)自動車ローンの月当たりの返済額の算出(3)同年齢の標準的な生活費と対応させ、その返済額の妥当性の検討ができるCAIを作成した。このCAIの評価を家庭科教員及び高校生に質問紙を用いて調査した。評価内容は、学習目標・内容、パソコン画面に関する項目について5段階で行った。なお、高校生についてはパソコン及びパソコン学習に対する意識も調査した。

結果 (1)の自動車一覧表は、日本の自動車メーカーから販売されている乗用車602種について、ミッション・排気量等、車体・エアコン価格の他、実際の購入時に必要な諸経費のデータを登録した。(2)の自動車ローンの月当たりの返済額は、元利均等返済方法を用い、借り入れ額・利率・返済期間に応じて、均等返済額を算出する。(3)では、収入は高校卒業後就職したときの給料、支出は単身世帯の生活費を用い、これを自動車ローンが伴う場合の生活費とシミュレートできるようにした。また、教材の評価の結果は、家庭科教員、高校生ともに「高校生に適した内容で、男女共学の教材として適切である」「コンピュータ教材としての特長がいかされている」等であった。パソコン及びパソコン学習に対する意識調査では、パソコンに対する意欲や関心を強く持っている生徒は、学習目標・内容についての評価が高い傾向にあった。